

電気科に入ったからこそかなえたい夢

群馬県立桐生工業高等学校 電気科 1年
岡崎 真夕

私の将来の夢は、産業ロボットや介護ロボットの企画や開発に携わることです。

まず最初に、私がなぜこのような夢を持ったかという、中学校の時に「マイ・チャレンジ」という職業体験で、電子機器を扱う企業に3日間お世話になりました。最終日にそこで、プリント基盤を作らせていただきました。それがとても楽しく、「将来もこのような職業に携わりたい」と思うようになったのが、「産業ロボットや介護ロボットの企画や開発に携わる」という夢を持った理由です。

ですが、私が作りたいのはロボットの外見の方ではなく、動きを制御したりする中身の方です。外見の方は、機械科の方でも作れると思いますが、中身の方は、基盤を作らなくてはならないので、ハンダをつけたりすることを多く学ぶ電気科に入ったからこそできるものだと感じたので、私は中身の方を作りたいと思っています。

次に、なぜ産業ロボットや介護ロボットかという、これからの日本に必要なからです。3年後の2020年には、2回目の東京オリンピックが開催されます。外国人の観光客も増えると言われていの中で、人間だけで対応することは難しいと私は思います。そこで、外国語を搭載させたロボットを作れば、その問題を緩和させることが可能だと思います。また、介護ロボットは少子高齢化が進んでいるからです。介護士の人も減っている中、介護士の人が問題を起こし、世間の人たちにあまり良いイメージを与えていないのではないのかと、最近思うようになりました。近い将来、介護士の人たちがいなくなってしまうのもそう遠くないはずで、だから、介護ロボットを作って少しでも介護士の人たちの負担を軽減させてあげたいです。

最後に、これからの3年間をいかに充実過ごすかが夢をかなえるための重要なカギだと私は考えています。専門的な事を勉強できる工業高校の電気科に入学した以上、沢山の資格を取得したり、専門的な知識や技術を修得することが使命だと思っています。普通科の高校に進学すれば、専門的な事は学べないと思ったので工業高校に進学しました。私が通っている桐生工業の教育目標には、「スペシャリストを育成する」というフレーズが入っています。これからの日本の産業を担っていく「スペシャリスト」を育成するという教育目標に正面から向かい、熱心なご指導をして下さる先生達に負けぬよう、一生懸命努力していき、一つでも多くの資格や知識、技術を身につけ「スペシャリスト」として日本の産業の中核となす人間に、この3年間でなりたいと考えています。

「産業ロボットや介護ロボットの企画や開発に携わる」という夢を目標として、見失わずに3年間精進し、夢をかなえたいと思います。